

新市まちづくり計画

目次

I 序論

- 1. 合併の必要性 ————— 1
- 2. 計画策定の方針 ————— 3

II 新市の概況と特性

- 1. 概況 ————— 5
- 2. 地域特性 ————— 9

III 新市まちづくりの基本方針

- 1. 基本理念 ————— 11
- 2. 新市の将来像 ————— 13
- 3. 基本政策 ————— 14
- 4. 土地利用及び都市構造の基本方向 ————— 17
- 5. 将来の人口、世帯数などの見通し ————— 23

IV 新市の施策 ————— 25

V 新市における三重県事業 ————— 51

VI 公共的施設の 統合整備と適正配置 ————— 57

VII 財政計画 ————— 59

VIII まちづくり推進のための方策 ————— 63

II 新市の概況と特性

1 概況

1 位置・面積・地勢

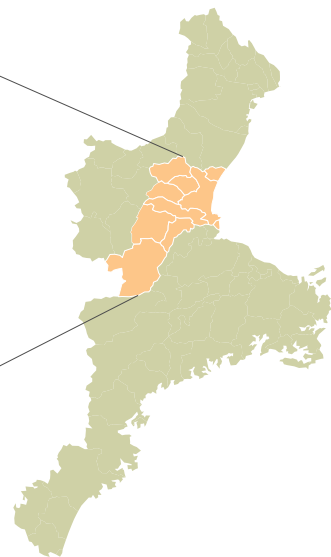
新市は、北に鈴鹿市、亀山市などと、西は名張市、奈良県御杖村・曽爾村などと、南は松阪市と接し、東は伊勢湾に臨み、三重県の中央部を横断して位置しており、面積は約710km²で、三重県の市町村で最も面積が広くなり、総面積の5,776km²の約12%を占めることになります。

本圏域の地勢は、山間地帯、丘陵地帯及び平野部の3地帯に分けることができます。

西境沿いの山間地帯は、標高700～1,000mの山々が連なる布引山地と一志山地からなります。

布引・一志山地の山ろくは、東に向かって高度を減じつつ、標高30～50mの丘陵地、丘陵地縁辺の台地、伊勢平野の一部を形成する海岸平野へと階段状に広がり、布引・一志山地を源とする安濃川、雲出川が伊勢湾に、また、圏域内西端近くに流れる名張川が木津川、淀川を経由して大阪湾に注いでいます。

❖ 圏域図



2 歴史

新市は、旧藩政時代、大部分が藤堂藩（津藩、久居藩）に属し、伊勢街道や初瀬街道、伊賀街道、伊勢本街道、伊勢別街道の5街道が通じていました。

「天保郷帳」によると、旧藩政時代の後期には、現在の津市域に当たる地域に77か町、59か村、久居市域に21か町、17か村、安芸郡域に64か村、一志郡域に49か村と300に近い町や村が存在していたといわれています。

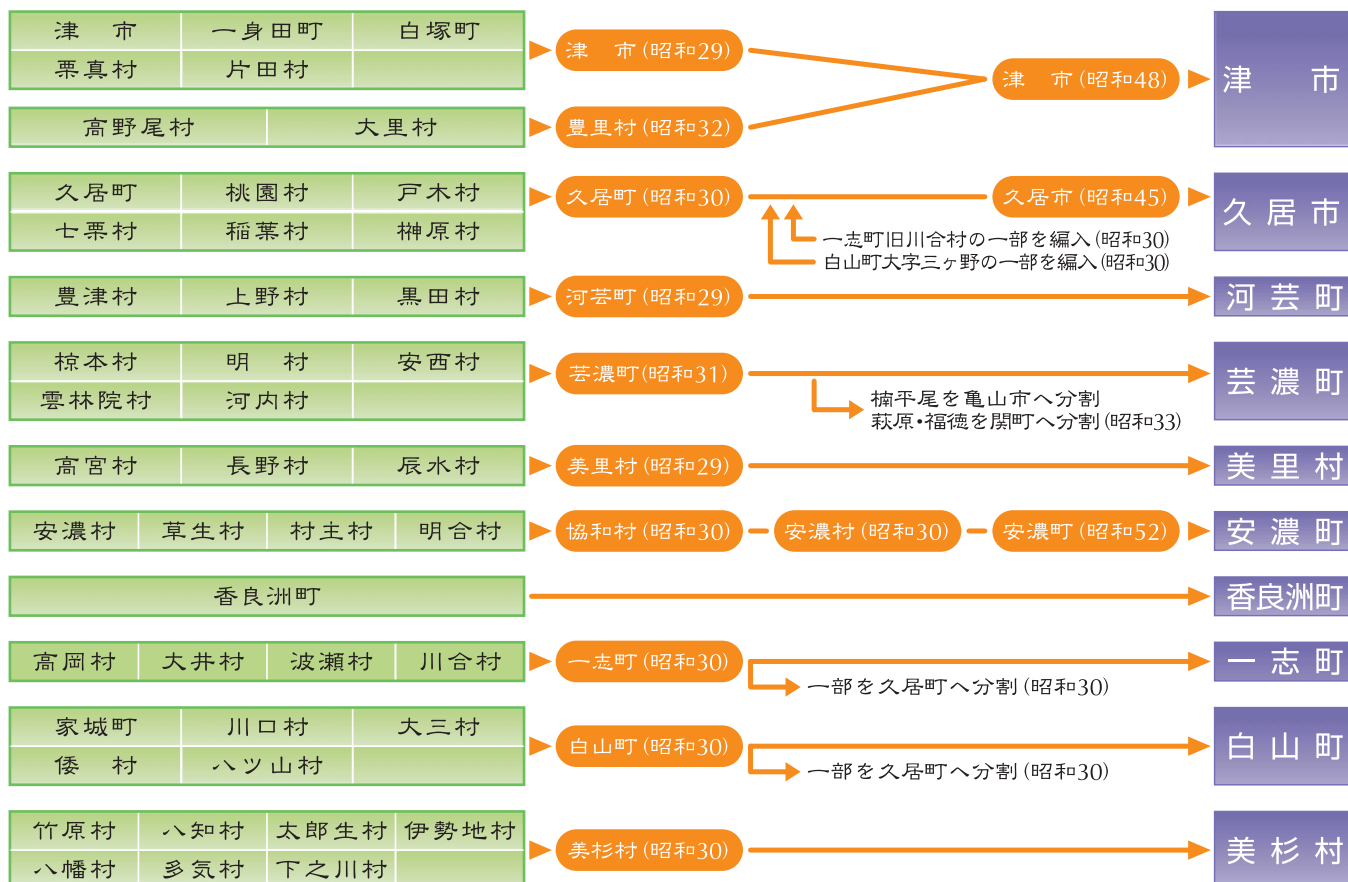
その後、明治4年の廃藩置県により、本圏域の旧藩政期の

村々は安濃津県又は度会県に分属されましたが、翌明治5年、安濃津県が三重県と改称され、明治9年には度会県を編入、本圏域は三重県の管轄となりました。

さらに、明治21年4月公布の市制町村制により、翌明治22年4月、全国一斉に町村合併が行われ、本圏域では1市2町53村が誕生しました。

その後も合併、編入、改称などが進められるとともに、昭和28年10月の町村合併促進法の施行に伴って、町村合併が実施されたことなどにより、現在は2市6町2村となっています。

❖ 昭和の合併状況



3人口・世帯

平成12年の国勢調査による新市の人口は、286,521人となっており、三重県の総人口の1,857,339人の15.4%を占め、県内で2番目に人口の多い市になります。

年齢階層別人口と構成比は、年少人口（0～14歳）が42,176人で14.7%、生産年齢人口（15～64歳）が

189,446人で66.1%、老年人口（65歳以上）が54,869人で19.2%となっており、三重県の構成比と比較すると、年少人口で0.5ポイント低く、生産年齢人口と老年人口でともに0.3ポイント高くなっています。

世帯については、平成12年の国勢調査によると、102,795世帯となっており、1世帯当たりの人員は2.79人で、三重県全体の平均2.92人をわずかに下回っています。

❖平成12年国勢調査

区 分	新 市		三重県		県における 構成比	県の構成比 との差
	人口	割合	人口	割合		
年少人口（0～14歳）	42,176	14.7%	283,081	15.2%	14.9%	－0.5
生産年齢人口（15～64歳）	189,446	66.1%	1,222,594	65.8%	15.5%	0.3
老年人口（65歳～）	54,869	19.2%	350,959	18.9%	15.6%	0.3
総人口	286,521	—	1,857,339	—	15.4%	—
総世帯数	102,795		636,682		16.1%	—
1世帯当たりの人員数	2.79		2.92		—	—

※総人口については年齢不詳を含んでいます。



4 産業規模

平成12年の国勢調査による新市の就業人口は、141,331人で、三重県の総就業人口の15.2%を占めています。また、平成12年度県民経済計算による新市の総生産額は、1兆1,181億円で、三重県の総生産の16.1%を占めています。

就業人口と総生産額の産業別構成比を三重県のそれと比較すると、第1次産業では大きな差はないものの、第2次産業は就業人口で5.5ポイント、生産額で11.3ポイント低くなっており、逆に、第3次産業は就業人口で6.5ポイント、生産額で12.0ポイント高くなっています。

❖平成12年国勢調査及び平成12年度県民経済計算

(単位:人、百万円)

区 分		新 市	三 重 県	県における構成比	県の構成比との差
第1次産業	就業人口	5,607	48,545	11.6%	—
	構 成 比	4.0%	5.2%	—	－1.2
	総生産額	15,510	142,697	10.9%	—
	構 成 比	1.4%	2.1%	—	－0.7
第2次産業	就業人口	43,114	334,299	12.9%	—
	構 成 比	30.5%	36.0%	—	－5.5
	総生産額	304,272	2,669,523	11.4%	—
	構 成 比	27.2%	38.5%	—	－11.3
第3次産業	就業人口	91,802	543,529	16.9%	—
	構 成 比	65.0%	58.5%	—	6.5
	総生産額	832,305	4,325,749	19.2%	—
	構 成 比	74.4%	62.4%	—	12.0
帰属利子(控除)等	総生産額	33,986	210,559	16.1%	—
	構 成 比	3.0%	3.0%	—	—
合 計	就業人口	141,331	929,866	15.2%	—
	総生産額	1,118,101	6,927,410	16.1%	—
	構 成 比	100.0%	100.0%	—	—

※就業人口合計については産業分類不明を含んでいます。

※総生産額構成比については帰属利子(控除)等を含んでいます。